

早川： おはようございます。今朝のエコロジートークは、今月 4 月 22 日、23 日と愛知県名古屋市で開催される Earth day 2000 年地球の日フェスティバルに関しての取材です。環境に優しい建物を普及させようと 1998 年 3 月に設立された日本グリーンビルディング協会。大手メーカーやゼネコン、ホテルなど 100 社以上が参加しています。この創業者で、ペス建築環境設計社長の石黒隆敏さん、Earth day 開催にむけて今忙しく準備をしています。2000 年地球の日と今日までの経過や意義、そして Earth day の歴史も含めて伺って参りましょう。  
石黒さんにお話を聞きます。

早川： 「Earth day」という名前は、ネーミングは聞いたことはあるんですけども、こんなに 30 年もたつほど長い歴史を持っているとは知りませんでした。いつから始まったものなんですか。

石黒： これはですね、1970 年一番大きなイベントはニューヨークで始まったわけですが、アメリカを中心に世界で行われた行事でして、30 年というのは、時代的には 30 年たっていますが、実はイベントは 10 年ごとあるいは 5 年ごとに大きなイベントが行われているということで、実際は 30 年毎年それが行われている訳ではない。現実には 1970 年の第 1 回から 10 年から 15 年は何も活動がされていなかった。最近環境問題が非常に大きな問題になってきて、新たに 1990 年から再度地球環境について考えようということで関心もたれるようになったわけです。

早川： この 1970 年の時にちょうどお仕事でたまたまアメリカにいらして、この Earth day というのを体験なさったわけですね。

石黒： そうです。たまたま私はその時アメリカのニューヨークの設計事務所に勤務していたために、日本人が一人だけの事務所だったため自由行動ができたということもあって当日 1970 年 4 月 22 日ニューヨークの五番街で行われたこれに参加することができました。

早川： はい、今写真をちょっと見せていただいたんですけど、ニューヨークの五番街の中でなんともこう人が楽しそうに、自然に歩いているという風景が目につくんですけど、これが環境と結びつくんですか？

石黒： 要は、環境というのは基本的には個人個人の自分自身の生活を自分のスタイルですと、その結果的に環境に対して負荷を持たないということなんで、実は写真を見ていただいた中で、私あの写真が好きなんですが、当時トンボめがねと呼ばれる非常に大きなめがねをかけていた人達、あるいはベトナム戦争に対して反対しているヒッピーの人達、そういうものが非常に混在しているんですが、調和したかんで五番街を散策しているというのが私にとって非常に楽しみでもあり喜びでもあるということです。

早川： そして当日、時間をきめて車が全部止まって歩行者天国のようなかんじですか？

石黒： 実際はですね、12時をきして五番街の交通を止めたんですが、それが日本へ導入されておっしゃるように歩行者天国となったわけです。

早川： そうですか。それはおもしろいですね。おもしろいなんていうといけないかもしれませんが。

\*\*\*\*\*テープの不具合\*\*\*\*\*

早川： でもその30年前のEarth dayを石黒さんももろに楽しまれて・・・？

石黒： ええ私はもうもろに楽しんで、それは私にとって環境に対して非常に好意的な感情をもつということになったのです。

早川： では、そもそものきっかけが30年前でいらっしゃった。そして今のお仕事、先ほど私は「ペス建築環境設計」というふうにご紹介したんですけど、そういうお仕事にもつながっていらっしゃったんですね。

石黒： 仕事は直接的につながるといことはあんまりないのですが、何かをしないと生きてる証にはならないと、できれば好きなことをやりながら生きている証を死ぬまで自分なりに確認したいという中で、私は自然が好きだし、それからテクノロジーも好きだから、両方の接点でやれるような環境に配慮した設計というものを選んだわけです。

早川： 「ペス」というのは「PES」と書きますけれど、これも環境に配慮したというような・・・。

石黒： 環境に配慮したというよりも環境を考えてというふうにもしろ私たちは考えている。環境に配慮した空間設計という得てしてエネルギーを全然使わないとか、まるでテクノロジーから離れてしまった、たとえば風呂に入らない生活をするとかそういうようなことを私は決して望んでいるわけではなくて、人間の欲望をある調和した形の中で実現していくことに対して協力したい、そういう空間をつくりたいというのが希望です。

早川： 環境空間の企画という意味があると受け止めるんですが、すぐものたちがいろんな欲をもちますよね。「こういうことをすると快適だろうな。こんな環境の中で暮らしてみたいな。」そういうアイデアのようなものを考えてくださるという・・・。

石黒： 私はたとえばですね、人間の五感というものに対して非常に観点を持っているわけですね。五感をどのように人間が失いつつあるかということについて私自身は非常に関心があって、私はだからテレビを音だけで聞いたり、画面を隠して音だけで聞くんですが、あるいは、音を消して画像だけで見ると、そういうようなことで自分達の五感に戻る、獲得できる。従って空間がそういうように作られている、自由に選べる、非常に原始的なことから非常に高度なテクノロジー、自動制御のところまで選べるというような空間が作りたい。

早川： なるほど、そうするとそういうものが人それぞれ自分達でまた見つけていく楽しさもあるわけですね。

石黒： そうですね、たとえば私はニューヨークで住んでいるんですが、私の部屋から **World trading center** がみえるんです。そうしますと、だいたい4時か5時ごろ夏陽があたります、東から。ピンクになってだんだん色が変わっていった中ではメタリック非常に金属性のものになって、夕方になるとまた変わるんですね。そういったことを自分の部屋の窓から見ているという楽しみ、例えば家に住んでいるときでも、自分達が朝の光でたとえば外を見たり、夜の暗さの中で外を見たり、あるいは夏の暑い日差しの中で過ごそうとしたり、そういうことの選択を失っているのではないか、それが私の考えている環境プランニングなんです。

早川： 環境というのは、こうしちゃダメです、リサイクルしなさい、こうしなさいとか決めつけというものではなくて、それぞれがなにか自分の中から見つけていくもの、というような感じもしてきますよね。

石黒： 贅沢な人間が楽しめるんです。いろんなことをやってみたい人間が楽しめるんです。そういう訓練さえ、あるいはそういう欲望さえもっていれば人間は十分環境を楽しんで住むことができる、そういう空間をあげたい、私たちがそういう空間を提供してあげたい、それを設計してあげたい、というのが私の希望でもあるんです。

早川： そうですね。そういうお仕事のかたわらで今回の4月22日23日の **Earth day 2000** 年地球の日の開催の準備を進めていらっしゃるわけですが、具体的なお話も次週いろいろ伺わせていただくんですが、やっぱりきてくださる皆様にはさりげなく自然に久屋公園にあの付近に集まっていたら、なにかがみつかるのでしょうか。

石黒： 何かが見つかるという、帰りにあめがもらえとかいう話もありまして。(笑) **Earth day** のシンボルの金太郎あめをつくりまして、そういうものは帰りにみなさん持って帰ってもらいますが、いちおう姿勢としては、なにか自分の人生にとって大事なものがそこにあるにちがいないというぐらいの、多少だまされたかんじでもきていただくと20ブースありますので、それをいろんなテーマでみてスタンプラリーしますのでかんじとっていただけたと思います。

早川： そうですね。そしてまた当日、ボランティアとかあるいはいろんな意味で参加してくださる方たちも今募集をしていらっしゃいますよね。

石黒： ボランティアはいちおういろんなところへお願いをして何人かきていただくという予定をしておりますし、要はこういった会は参加者がいかに優秀であるか、参加者がいかに一生懸命であるか、参加者がいかに興味深々ときてくれるかということによって、これが成功するあるいはうまくいくということになる、たとえ成功したという評価がでなくても私自身はそれを事実として、日本の環境

に対する認識の事実として認めるということを喜びと思っていますけれど・・・。

早川： はい、そうですね、30 年前、石黒さんがご自分の目であの五番街でみた、あのなんか楽しい面白いという、地球の日は、この中部地域でも開かれるというのが、私どもも期待するところもあります。

石黒： ぜひ、期待していただきたいと思います。こういうのは、今迄たぶん日本で、ですねほとんどやられていなかったそういう催し物だと思うんです。企画を参加者側に参加してもらうことによってよりあげるといような形は、与えるのではなくてあなたも参加していただくんですよという形はあまりやられていなかったんじゃないかと思いますので、期待していただいていいと思います。

早川： はい、ありがとうございました。

早川： 1970 年 4 月 22 日、アメリカで誕生した Earth day 地球の日。今年は 30 周年を迎えるわけです。中部地方での大規模イベントは初めてです。ぜひ大成功させたい。そのための熱い支援とご協力をお願いします。実行される代表のペス建築環境設計社長の石黒隆敏さんです。では次回もお尋ねして具体的な内容や Earth day の目的、課題などもきいてまいりましょう。またお問い合わせは、2000 年地球の日実行委員会、電話愛知県名古屋 052-733-6825 へどうぞ。では、また来週日曜日の朝。

早川： 地球の環境保全。21 世紀の環境を守るために行政や各界の有識者、またはユニークな環境問題にとりくんでいる方たちがたくさんいます。さまざまな面からの取材を通して、お届けしているエコロジートークです。では来週をお楽しみに。

\*\*\*\*\*

早川： おはようございます。今朝のエコロジートークも前回に続いて、今年 30 周年を迎える 2000 年地球の日フェスティバルの取材です。愛知県名古屋市中区の久屋大通公園などで 4 月 22 日 23 日の 2 日間開催される Earth day です。国際的にも注目されている、国際キャンペーンのホストが俳優のレオナルド・ディカプリオということですから関心もあり、地球環境の大切さを考えるよいきっかけにもなりそうです。では、ペス建築環境設計社長の石黒隆敏さんにアメリカでの様子も含め、フェスティバルの具体的なお話も聞いてまいりましょう。

早川： 4 月 22 日 23 日といいますと、もうあと 1 週間ということで、かなり準備ができていらっしゃると思いますか。

石黒： 準備はできていませんね。

早川： そうですか、ではもう自然にありのままに、みなさんに参加してもらって楽しんでもらおうという心意気だけで。

石黒： 用意するものは出来ると思うんですけど、私の自分の考え方からすれば、昨日の私と今日の私というのは1日成長しているわけですね。で、今日の私と明日の私はもう1日成長しているわけですから、ちょうど4月22日にちょうど最高の状態に、自分の成長の状態をもって行きたいと、したがって、現時点で1週間前にすべてがそろっていたということは怠惰であって1週間なにもしないということになるから、成長しないというようなそういった考え方には私自身いたっていないということです。

早川： そうですか。ありのままにご自分を自分の目で成長させて、その中でみなさんにも環境の大切さというものを啓蒙していこうという思いもありだろうと思うんですけども、アメリカでいろんな方たちとお会いして打合せをされて、先ほど私はタイタニックのディカプリオがホストだといいましたけれど、カッコいいですね。

石黒： そうですね。彼はやっぱり若い人の中では人気者です。それでアメリカの Earth day をやっている人達も多くの人達は私よりは少し若いですが、だいたいそんなに若い人達ではないんですが、その人達は「えっディカプリオ？」っていつてます。でも、若い人達にはやはり人気があると思います。彼らはディカプリオを支持しています。

早川： そうですね、やはり若い人達、あるいは女性も含めて、おそらくディカプリオ人気というのも、ともに環境への思いでワーッとみなさん楽しめるっていう気もするんですけど。

石黒： そうですね。やはり俳優として彼が演技をしますよね。ディカプリオの演技。そうすると彼らは4月22日にワシントンモールで百万人の人が集まってそこで彼はどういうスピーチをするのかということの一つのみんな多くの人達の興味だと思うんです。彼がそれで彼自身のパーソナリティをそこでださなければいけないはずなんで、私はそれは私自身も興味がある、監督がいない状態で彼はやらなければいけないはずなんです。

早川： いいですね。かたやワシントンモールではディカプリオが、そして日本では名古屋の久屋大通公園でみなさんがいろんなものをこう見て歩かれるわけですけど、まずこう具体的な提示されるようなものはどんなものでいらっしゃいますか。

石黒： 会場はいちおう二つあるわけですが、一つは雨天のこと、私自身は雨はそんなにきれいじゃないんですが、雨のことも考えて、第一会場、第二会場になっております。一つは中区役所で、これは主としてインドアの、一つはテレビ塔下の、これは大きなメインイベント。中区役所の方は、講演が二つ、それから子供たち、鈴木メソッドの160人のバイオリンコンサートとか、ミニバレエとか、ぬいぐるみをきた寸劇がありまして、それが環境劇なんで、それと中の出席者というかそれをみにきている人と環境やりとりクイズをやる。それから金属楽器でない、セラミックの楽器の演奏会で最後しめると、それが中区役所の方でして、外では20のブース、それぞれ企業が企業商品、企業商品というのは環境に配慮した商品、あるいは企業の環境活動、その発表、あるいは、北は北海道から沖縄までかく都道府県市町村の環境に関するポスターを集めました。したがってそれは現在40

都道府県市町村から集まってきました、それをそれぞれのテーマ別に地球温暖化、あるいはオゾン層破壊、あるいは動物絶滅、そういったテーマで各北から南まで日本の人達がどのようなことを行政側でやっているかということ、みなさんにみていただくことができるし、同じように外国からはメキシコとか南京だとか、これは名古屋の姉妹都市ですが、そういったところからのポスターや情報、それからルフトハンザからのドイツの環境の考え方の紹介、それからまた、カザフスタン、ウズベキスタンの大使の協力によりそのブース、いかにきれいな景色をその国がもっているかということをもてもらいたいということでそういったことも行っています。

早川： もう環境一色になんか塗りつぶされるというそんなかんじすらしますよね。

石黒： そうですね。それを環境といえば環境ということでしょうし、途中にですねある企業は環境クイズをやりますし、私どもが用意するのは環境モノポリというものがありまして、環境のこれはアメリカでつくられたものを日本風にアレンジしたんですが、子供たち5，6人参加して、それぞれ例えば地球温暖化について質問があります、ABCと質問があつて、Aですか、Bですか、Cですか、で、Cがあつていればいくらというお金をもらうんです。最終的には全部セットがそろると、その点数をアメリカですから200ドルとか、100ドルとか足し算して、一番たくさんお金を集めた人が勝ちというような、銀行がひとりいましてね、モノポリですから5，6人の人が参加して、最終的に終わるとだれが勝ちと、それは環境モノポリというゲームも場所でやって子供たちにきっと楽しんでもらえるんじゃないかと、そういうふうに思っています。

早川： そうですね。そういう楽しさや面白いなと思う中から、なにか環境を自分の目で学んでいくというのが当日なんかすばらしいことみたい・・・。

石黒： ええできればね。参加意識がもっと重要だと思うんですね。傍観者としてそこを通り過ぎるんじゃなくて、自分も中に入つたと、我々が考えているのは、いかに中に入らせるかと、文句いってもらってもいいし、喜んでもらってもいいし、自分がそこに参加したという意識をもってもらえるようなブース作り、あるいは企画作り、そういったものをいちおう実現できればと思っていますけれど。

早川： そして今、旗に寄せ書きも募集をしていらっしゃって、寄せ書きをした旗をワシントンモールに持って行くんだそうですね。

石黒： ええ、いちおうですね、ワールドホストがディカプリオさんなんで、我々の方も若い人を集めまして、旗を持って行って当日日本代表としてディカプリオ氏に会って、それで彼からサインをもらってきなさいというふうに、それで世界が一つになると考えています。

早川： そうですね、だからこのEarth day 2000年地球の日というのは、今回たまたま30周年でそして2000年という4月22日なんですけれども、これからの課題として石黒さんはたとえばEarth day地球の日にどんなことを望まれますか。

石黒： いちおうですね、今回用意したのは一万通ぐらいなんですけど、回答はどれくらいわかりませんが、アンケートを行ったわけです。私は、個人の生活レベルの中でどういうことで自分たちが環境負荷をかけているかというのを気がついていないと思うんです。それをですね、毎日の生活、車の使い方、自転車の使い方、食べ物はどうしているのか、冷暖房はどうしているのか、洗剤は何を使っているのか、あるいは、環境問題を家族で論じているか、そういった多くの質問、32項目の質問を出しましてね、その項目の答えがでるんです。答えをとりあえず当日発表して、それに基づいて我々はいったいこれからどのような行動を本当にとっていくべきか、従来ですね、住民側のそういった実際どのような生活をしているのか、肉を良く食べているのか、穀類なのか、あるいはにわとりなのか、そういったことを調べなくて、行政側が政策をだしていたと。我々のレポートがでてきますので、それを参考にさせていただいて、次に2001年にやろうと思っているんです、2001年からこれから毎年やろうと思っているので、2001年に具体的にこういうことを前回の2000年のデータでやることができたという、そういうふうにもっていくのが、私の今の希望です。

早川： そうですね、私どももこの番組で是非そういうものもみなさんに伝えて、また電波をとおしてのみなさんの協力もお願いして、そんな協力をしていきたいと思っています。

石黒： ありがとうございます。

早川： どうぞ、4月22日、23日の成功をお祈りしています。

石黒： ありがとうございます。

早川： 地球規模の大イベント Earth day、各国、各地で独自の環境イベントが展開されますが、愛知県名古屋市の2000年地球の日フェスティバルも、地球を守る意義を中部地方の人達に知ってもらう大きな啓蒙運動となりそうです。4月22日、23日の週末は、名古屋市中区久屋大通公園などに足をのばしてみてください。そして、Earth day 2000の旗への寄せ書きにも協力してください。

\*\*\*以下テープ切れる\*\*\*